

第6学年 社会科学習指導案

1 単元名 「新しい国づくりは、どう進められたの」(日本文教出版上)

2 単元について

- 本単元は、学習指導要領内容(1)の「キ 黒船来航, 明治維新, 文明開化などについて調べ, 廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い, 欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること」と「ク 大日本帝国憲法の発布, 日清・日露戦争, 条約改正, 科学の発展などについて調べ, 我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること」を受けている。

江戸時代末期, いわゆる鎖国を行っていた日本は欧米諸国の要請に屈し, 開国した。そして, 日本は欧米諸国と不平等な条約を結ぶことになってしまった。明治期に入り, 新政府は西洋の文化や制度を取り入れることで近代化を図った。その結果, 清やロシアに戦争で勝つほどまでに国力を充実させ, 欧米諸国に認められ, 条約を改正するに至った。しかし, 日本が近代化した背景には, 不利益を被ったり, 犠牲となったりする人々がいたことも事実である。したがって, 国家の立場からだけではなく, 様々な人々の立場を基に, 新政府による政策がどのような影響をもたらしたのかを考えさせることで, 多面的な見方や考え方を養うのに適した単元であると考えられる。

- 本学級には, 歴史に興味をもっている児童が多く, 事前の調査によると, 児童の8割が歴史の学習が好きだと答えている。また, 児童の9割が, 歴史上の人物や出来事を基に話し合うことが好きだと答えている。しかし, 友達が主張する考えに対して, 内容を受け止め, 反応することができる児童は少ない。これは, 児童が話し合う目的を把握できておらず, 友達の主張が論点に沿っているのか理解できないまま, 取り組んでいたことが考えられる。したがって, 児童のこれまでの学習経験から, 社会的な問題を見出すことに困惑することが予想される。内容に関わる事前の調査では, 日本が物事を決めるときに大切にすべきなのは何かを問うたところ, 児童の約3割が国益, 約7割が不利益を被る人がいないことと答えている。このことから, 「日本の発展」と「国民の生活」のどちらを優先すべきかを考える際に, 意見の偏りが生まれることが予想される。

- 指導に当たっては, まず, 黒船の来航から大政奉還までの歴史的事象を調べ, 事象を関連付けながら江戸幕府が倒れた理由を考えさせる。その後, 明治政府にとっての課題を予想させることで, 「欧米諸国と結んだ不平等な条約」と「外国との力の差」を捉えさせる。これにより, 明治政府による国づくりの目標を明確にし, 学習問題「大政奉還後, 日本の政治や人々の暮らしは, どう変わっていったのだろう。」を設定する。次に, 明治政府による国づくりの方針として発布された五箇条の御誓文を基に, 明治政府がとった中央集権化, 富国強兵策について, 廃藩置県や徴兵令など具体的な改革や政策ごとに調べさせる。この際, 「どんなこと(内容)」に加え「なぜ, 何のために(理由)」, 「これによりどうなった(結果)」の視点で調べさせることで, 国づくりの目標と関連付けながら捉えさせていく。これにより, 不平等な条約の改正や産業や科学の発展など, 日本が近代化していき, 国際的な地位を向上させることができたことに気付かせる。さらに, 明治政府の改革や政策の結果について, 様々な立場や視点から「よかった点」と「問題点」をまとめさせる。その際, 「よかった点」と「問題点」の両面を対比させ, その理由や対象を問うことで, 「国の利益」と「国民の生活」を見いださせ, 対立していることに気付かせる。また, 考えが「問題点」を重視する方向に偏らないよう, 当時の日本の置かれた状況を確認しながら考えさせる。最後に, どちらを優先すべきだったかについて討論を行い, 意思決定をさせる。これらの活動を通して, 明治政府が「日本の発展」を優先した理由と, 対比した「国民の生活」の安定を求める理由のどちらの考えも踏まえて判断させることで, 多面的な見方や考え方を育てたい。また, これが現在の日本の政策を考える視点となり, 社会参画への基礎や国を愛する心情を培っていきたい。

3 単元の目標

黒船の来航から条約改正にかけて、日本が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進め、国力が充実し国際的地位が向上したことについて、ペリーや明治天皇などの人物の働きや歴史的事象との関連を年表や絵図、文章資料などを活用して具体的に調べることを通して、現在の自分たちの生活や国家・社会の発展の基盤になっていることを理解し、現在や未来の発展へ生かすことを考えることができるようにする。

4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
○黒船の来航から条約改正にかけて、日本が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進め、国力が充実し国際的地位が向上したことに関心をもち、具体的な政策や人物の働きなどを意欲的に調べている。 ○明治政府の目指した国づくりと影響を受けた国民の生活とを比較したり、総合的に考えたりして、過去の出来事を現在や未来の発展に生かすことを考えようとしている。	○黒船の来航から条約改正にかけて、日本が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進め、国力が充実し国際的地位が向上したことについて、それらに関わる事象や人物の働きなどを関連付けて適切に表現している。 ○明治政府の目指した国づくりと影響を受けた国民の生活とを比較したり、総合的に考えたりして、過去の出来事を現在や未来の発展に生かすことを考え適切に表現している。	○年表や図絵、文章資料などを活用して、黒船の来航から条約改正にかけて、日本が欧米の文化を取り入れつつ近代化を進め、国力が充実し国際的地位が向上したことについて必要な情報を集め、読み取っている。 ○黒船来航以来、日本の近代化に関わる政策や人物の働きについて、文化財、地図や年表、その他の資料から必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。	○廃藩置県や市民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことで日本の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解している。 ○黒船来航により、日本が開国し、明治政府が近代化を進めたことやその結果国際的地位が向上したことが、現在の自分たちの生活や国家・社会の発展の基盤になっていることを理解している。

5 単元計画（全11時間 本時10/11）

過程	主な学習活動(○)	教師の働き掛け (○)	【主な評価】(・)	時配
学習問題をつかむ	○ペリー来航後、江戸幕府が取った対応を調べ、どのようにして幕府の力が衰え、大政奉還に至ったかを考える。 ○明治政府にとっての新しい国づくりの課題を予想させる。	○幕府に対する不満や倒幕への流れを捉えさせるために、幕末に活躍した人物の活躍を調べさせ、不満を視点に関連付けながら考えさせる。 ○幕府への不満や不平等な条約の内容から日本にとって不利益となるものを読み取らせる。この際、児童が予想した新しい国づくりの課題や疑問に思ったことを基に、学習問題を設定する。	・ペリーの来航後の幕府の対応や武士による政治の終焉に関心をもち、学習問題を考えている。 【関】	1
	大政奉還後、日本の政治や人々の暮らしは、どのように変わっていくのだろう。 《学習問題Ⅰ》			

調 べ る	○五箇条の御誓文の内容から、新しい国づくりの方針を調べる。	○江戸幕府への不満や不平等な条約と関連付け、新しい国づくりの方針を理解させるために、五箇条の御誓文を児童の予想と照らし合わせながら読み取らせる。		1
	○明治政府が行った主な改革や政策について調べ、政治や社会の仕組みをどのように変えていったのか考える。	○具体的な改革や政策の目的と内容に関連付けて考えさせるために、内容、理由、結果を視점에調べさせる。 ○調べさせた改革や政策を、目的に応じて中央集権化と富国強兵に分けて示し、これらが欧米諸国に早く追い付こうとしていたことを考えさせる。	・新政府が富国強兵策を進め、欧米諸国に早く追い付こうとしていたことを具体的な改革や政策の目的に関連付けて考え、適切に表現している。 【思】	
	○四民平等について、江戸時代の様子と比較しながら調べる。	○江戸時代の身分制度と対比させることで、人々のくらしの変化や、差別が残っていたことに気付かせる。	・社会のしくみの変化に気付くとともに、差別が残り、差別をなくそうとする運動が起こったことを理解している。 【知】	1
	○蝦夷地や琉球の様子について調べる。	○中央集権化により、蝦夷地から北海道へ、琉球藩から沖縄県へと改称され、政府の統治下となったことを捉えさせる。		
	○文明開化によって、人々の生活は、どのように変わったのか調べる。	○人々の生活の変化に気付かせるために、江戸時代後半と明治時代の初めとを町の様子や学校の様子の絵を対比させ、服装や建物などの視点を基に調べさせる。	・絵図から、人々の生活の変化を読み取っている。【技】	1
	○新政府の政治に不満をもつ人々は、どのような活動をしたのか調べる。	○演説会の様子を描いた絵から当時の状況を読み取らせ、政府に不満をもつ人々がいたことに気付かせる。 ○板垣退助や大隈重信、西郷隆盛、伊藤博文の働きについて、内容と理由を視점에調べさせ、関連付けることで、人々の不満が国会開設や憲法発布へつながったことを理解させる。	・自由民権運動の広がりにより、議会の開設につながっていったことや、憲法の制定によりアジア初の立憲政治国家になったことを理解している。 【知】	
	○大日本帝国憲法は、どのような特色をもつ憲法か調べる。	○主な条文から立場を視点に読み取らせることで、天皇に主権があり、議会や国民の権利は弱いことを捉えさせる。		1
	○日清・日露の戦争が起こったことを知り、原因と内容、結果について調べる。	○日清・日露戦争の風刺画や絵などを基に、戦争が起こった状況や原因を調べさせる。また、文書資料を基に結果として日本が勝利したことが、欧米諸国に日本の力を認めさせることになったことに関連付けて読み取らせる。 ○賠償金の使い道のグラフを読み取らせることで、日本の軍備が更に拡張されたことに気付かせ、これにより、人々	○日清・日露の戦争についての風刺画や絵、地図、グラフなどから、日本が清やロシアと戦争を行った原因と内容、結果を読み取っている。【技】	

	○遣欧使節団や陸奥宗光、小村寿太郎などの業績から条約改正の流れとその背景を調べる。 ○日露戦争後の韓国に対する日本の動きを調べる。 ○工業の発達とその問題点について調べる。	の不満が出たことにも触れておく。 ○ノルマントン号事件の風刺画や内容から不平等な条約の内容を想起させることで、条約を改正しようと努力した人々の働きに着目し、調べさせる。 ○朝鮮を植民地にしたことで、日本が軍事的な力を付けたことを誇示できた反面、朝鮮民族としての誇りを傷つけたことや朝鮮や中国の人達への差別の意識が現在も残っていることに触れておく。 ○工場数の増加のグラフから日清戦争後に急激に工業が発達したことを読み取らせる。一方で、公害の学習を想起させたり、労働時間を読み取らせたりすることで、弊害についても触れておく。	○条約の改正，韓国併合，重工業の発展と日本が国内外での国力を充実させ，欧米諸国と対等な地位を築いたことを理解している。 【知】	1
	○北里柴三郎や野口英世などの業績と医学の発展について調べる。 ○教育勅語によって，教育がどうなっていったのか調べる。	○科学の発展とともに，医学や文学などが発展したことに触れ，現在の文化や教育との繋がりを意識させる。 ○個人よりも国を大切にす国家主義の教育が強まったことを捉えさせる。	○欧米文化が取り入れられ，科学の進歩とともに，文学・美術・音楽などの文化や教育が広まったことを理解している。 【知】	1
	○明治政府による政策を振り返る。 ○明治政府が行った主な政策のよかった点や問題点を考える。 ○論題に対して，自分なりの考えをもつ。	○明治政府が行った改革や政策を総合的に考えさせるために，目的や内容などを表にまとめさせながら確認する。 ○「徴兵令」，「地租改正」，「殖産興業」，「学制」について，様々な立場や視点に立って，よかった点や問題点を考えさせる。これにより，「国の利益」を優先した一方で，「国民の生活」に不満が募ったことに気付かせ，この対立点から論題を設定する。	・様々な立場や視点から見た明治政府の諸政策のよかった点や問題点を踏まえて総合的に考え，自分なりの根拠を基に政策を評価している。【思】	2 本時 (10/11)
	論題 明治政府は国の利益と国民の生活のどちらを優先すべきだったのか。《学習問題Ⅱ》			
考え・まとめる	○明治政府による政策について評価し，討論をする。 ○討論した内容を加味して最終的な意思決定をする。	○論題について，自分の考えの根拠を基に討論させることで，考えの違いや根拠の違いから明治政府の改革や政策について深く考えさせる。 ○考えの深まりには，根拠が増えることや変わることがあることを伝え，討論して学べたことを価値付ける。 ○現在の社会にも同じ様な価値の対立があることに気付かせ，社会への課題意識をもたせる。	・様々な立場や視点から見た明治政府の諸政策のよかった点や問題点も踏まえて総合的に考えたことを適切に表現している。 【思】	1

6 本時の目標

明治政府の諸政策について、様々な立場や視点から見たよかった点に加え、問題点も踏まえて総合的に考え、自分なりに評価することができる。

7 展開(全10時間 本時10/11)

学 習 活 動	教師の働き掛け（○）と評価【】															
1 前時に行った明治政府の政策のよかった点を振り返る。	○前時の振り返り(明治政府の改革や政策について、よかった点をまとめて考えたこと)を数名の児童に発表させる。この際、不満をもったり不利益を被ったりした人の立場に触れている児童を意図的に取り上げることで、問題点があったことに気付かせる。 ○児童の振り返りの根拠として、全てがよいことばかりに見える近代化政策にも、一揆や反乱などが起きたデータを見せ、本時の学習に対する意欲付けを行い、本時のめあてを設定する。 ※よかった点は前時に学習していたため、前時のめあてに（ ）内が付け加わり、本時のめあてとなる。															
めあて 明治政府の政策についてよかった点(や問題点もふくめて)考えよう。																
2 明治政府の主要な政策について、問題点を調べ、考える。 ① 小集団で調査活動を行う。	○それぞれの政策の問題点を深く考える時間を確保するため、グループごとに1つの政策の問題点を調べるように割り当てる。また、これにより、学級全体で確認する必然性を設定し、各グループでの調査に責任をもたせ、意欲付けを行う。 ○当初は、教科書や資料集だけで調査活動させる。調査が行き詰まるグループには、時間を置いて手掛かりになる資料を配付する。 ○グループで情報を共有できるように、記録係が確認しながら、まとめていくように指示する。															
② 学級全体で調査したことを確認する。	○よかった点と問題点とを比較できるように、表にして板書する。															
<table><tr><th>反応例</th><th>よかった点</th><th>問題点</th></tr><tr><td>徴兵令</td><td>近代的な軍隊を組織することができた。 2つの戦争に勝つことができた。</td><td>士族が必要でなくなった。農家では働き手が出ていかなければならない。 戦争によって、多くの人の命が失われた。</td></tr><tr><td>地租改正</td><td>政府が安定して収入を得ることができた。 徴兵令の資金とすることができた。 殖産興業の資金とすることができた。</td><td>不作となっても地租を払わなければならず、江戸時代よりも苦しくなった場所もある。</td></tr><tr><td>殖産興業</td><td>様々な近代的な産業が盛んになった。 鉄道や郵便など今につながる事業や制度ができて、便利になった。 現在にも存在する企業の手助けとなった。</td><td>女性労働者問題や足尾銅山鉍毒事件など社会問題が発生した。労働者にとってはとても過酷だった。</td></tr><tr><td>学制</td><td>みんなが平等に教育を受けられるようになった。科学や文化に貢献する人を育てることができた。</td><td>授業料が高かった。 学校を建てるには高額すぎた。 (教科内容が知識重視に傾いていた。)</td></tr></table>		反応例	よかった点	問題点	徴兵令	近代的な軍隊を組織することができた。 2つの戦争に勝つことができた。	士族が必要でなくなった。農家では働き手が出ていかなければならない。 戦争によって、多くの人の命が失われた。	地租改正	政府が安定して収入を得ることができた。 徴兵令の資金とすることができた。 殖産興業の資金とすることができた。	不作となっても地租を払わなければならず、江戸時代よりも苦しくなった場所もある。	殖産興業	様々な近代的な産業が盛んになった。 鉄道や郵便など今につながる事業や制度ができて、便利になった。 現在にも存在する企業の手助けとなった。	女性労働者問題や足尾銅山鉍毒事件など社会問題が発生した。労働者にとってはとても過酷だった。	学制	みんなが平等に教育を受けられるようになった。科学や文化に貢献する人を育てることができた。	授業料が高かった。 学校を建てるには高額すぎた。 (教科内容が知識重視に傾いていた。)
反応例	よかった点	問題点														
徴兵令	近代的な軍隊を組織することができた。 2つの戦争に勝つことができた。	士族が必要でなくなった。農家では働き手が出ていかなければならない。 戦争によって、多くの人の命が失われた。														
地租改正	政府が安定して収入を得ることができた。 徴兵令の資金とすることができた。 殖産興業の資金とすることができた。	不作となっても地租を払わなければならず、江戸時代よりも苦しくなった場所もある。														
殖産興業	様々な近代的な産業が盛んになった。 鉄道や郵便など今につながる事業や制度ができて、便利になった。 現在にも存在する企業の手助けとなった。	女性労働者問題や足尾銅山鉍毒事件など社会問題が発生した。労働者にとってはとても過酷だった。														
学制	みんなが平等に教育を受けられるようになった。科学や文化に貢献する人を育てることができた。	授業料が高かった。 学校を建てるには高額すぎた。 (教科内容が知識重視に傾いていた。)														
3 次時に明治政府の政策について討論を行うことを課題としてもつ。	○根拠に含まれる立場や視点(費用や時間, 不平等さなど)を基に、それぞれの問題点を関連付ける。															

① 社会的な問題を見だし、論題をつくる。	○よかった点や問題点について、「誰にとって」や「何に困るの」などと問い掛け、「国の発展を優先し、国民の生活に我慢を強いられた」ことを明らかにし、「国家の利益(国の発展)」と「国民の生活」とで価値観が対立していることを理解させる。 ○「どちらが大切か？」から「どちらを優先すべきだと考えるか？」へ段階的に問うことで、国家と国民との立場から価値付け、価値判断に迫るようにする。これにより、どちらを選んでも価値があることを捉えさせ、児童個人の意思決定へと誘う。
社会的な問題(研究や論争となる事件) 明治政府は、「国家の利益」を優先した政策を行ったこと	
論題 明治政府は国の利益と国民の生活のどちらを優先すべきだったのか。《学習問題Ⅱ》	
② 振り返りのポイントを基に、自分の考えを書く。	○学習の振り返りとして、明治政府の政策について、国の利益と国民の生活のどちらを優先させるべきだったかを、よかった点や問題点を踏まえて書かせる。【評価】 ○考えが違う児童を指名し、結論(〇〇を優先すべき)だけを述べさせ、話し合う必然性を感じさせることで、論題へと導き、次時への意欲付けとする。
振り返りのポイント 論題に対する自分の考えとその理由	

8 本時の評価

単元の評価規準	明治政府の目指した国づくりと影響を受けた国民の生活とを比較したり、総合的に考えたりして、過去の出来事を現在や未来の発展に生かすことを考え、適切に判断している。 (社会的な思考・判断・表現)		
本時の評価規準	明治政府の諸政策について、様々な立場や視点から見たよかった点に加え、問題点も踏まえて総合的に考え、自分なりの評価を適切に表現している。 (社会的な思考・判断・表現)		
判定基準 (判断のめやす)	「十分満足できる」状況(A) 複数の政策のよかった点と問題点を踏まえ、明治政府の改革や政策を評価し、根拠を示して記述している。	「おおむね満足できる」状況(B) 1つの政策のよかった点と問題点を踏まえ、明治政府の改革や政策を評価し、根拠を示して記述している。	「努力を要する」状況(C) (B)に達していない児童
	→(B)、(C)と判断した児童への支援策	→他の政策からも考えることができないか声掛けを行う。	→社会的な問題について、板書やワークシートを基に一緒に振り返り、判断させることで記述を促す。
評価方法	ワークシートの記述		